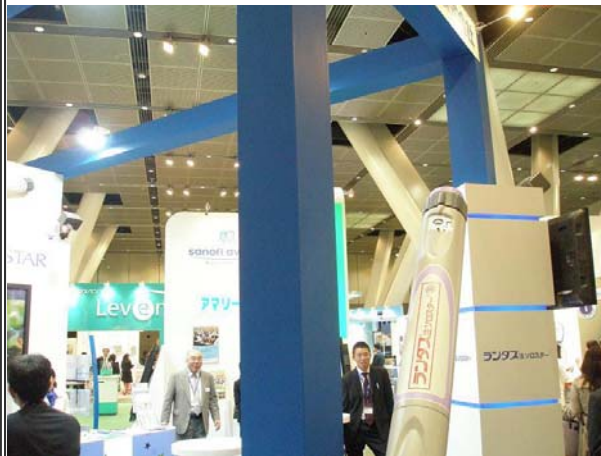




当院からの萬田直紀院長・中山秀隆糖尿病センター長を始め、総勢8名参加してまいりました。



糖尿病学会記

第51回日本糖尿病学会年次学術集会が今年も5月22日～24日まで、東京国際フォーラムにて開催されました。

全国から医師・看護師・栄養士など多数の医療関係者が集まり、日ごろの課題を持ち寄り討論をする機会です。年々その人数が増え、今年は東京という地の利のあって、非公式発表では参加者は14000人とのことでした。



会場の東京国際フォーラムは日本一とも言われる巨大な学会場で、ほとんどの催し物をここだけできできました。

それでもあまりの人の多さに圧倒され、朝から昼のセミナーに参加するための入場券を求めての長蛇の列はなんと異なる風景でした。

今年のトピックスをまとめてみますと、

- ① 夢のインスリンとしてアメリカで発売され、日本でも近く発売されると期待されていた吸入インスリンが残念なことに開発中のものも含めて市場から消えてしまったこと。
- ② 超持続型インスリンアナログ「レベミル注」が発売され、その使用経験や知見が数多く発表されていたこと。
- ③ 食事とインスリン分泌を仲立ちするインクレチンのひとつであるGLP-1製剤(注射 - GLP-1アナログ、経口 - DPP-IV阻害薬)は来年か再来年の発売を控えて発売前夜であること。
- ④ 日本腎臓学会が慢性腎疾患CKDの診断基準を発表したのを受けて、糖尿病性腎症とCKDの概念のすり合わせが行われていたこと。

最も多くの聴衆を集めた講演はIPS細胞の生みの親、京都大学の中村教授のお話でした。体細胞を先祖返りさせて、色々な細胞に分化できる能力を持ったIPS細胞は拒絶反応もなく、将来の膝島移植等に新しい光をあてるものとして注目されています。

市民講座では、「行列のできる・・・」でおなじみの住田弁護士がダイエットの体験談を披露。コレも超満員でした。

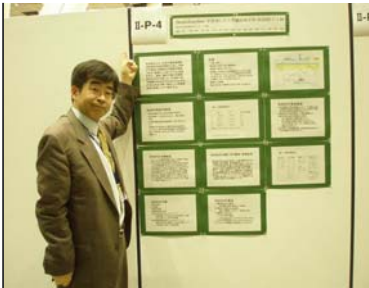
当院からは以下の3台を発表いたしました。

--	--	--



糖尿病患者の足・靴についての意識調査—治療用装具の購入支援から— MSW 滝田瞬子

「治療靴を利用した患者の足病変がその後どうなっているのか?」「傷が無くても靴の購入を希望する人はいるのか?」との質問があり、糖尿病患者にとっての靴選びは重要視されているとの印象を受けました。今後も靴を購入された方の状況把握に努めてまいります。



Demeclocyclineが奏効した2型糖尿病合併SIADHの1例
内科 種田紳二

原因不明のSIADHでレダマイシンという抗生物質の誘導体が低ナトリウム血症の改善に役立った例ですが、SIADHの定義に関するご質問、レダマイシンの使い方についてのご質問、私も原因不明の低ナトリウム血症で苦勞しているなど皆さんと活発な議論ができました。来年もがんばります。



民間療法に対する患者と職員の認識
薬局 葛葉 守

民間療法についてだったこともあり、多くの方がポスター前で立ち止まり見ていました。質問は、特に患者と職員の考え方の違いの原因についての質問が多かったように思います。またもっと詳しく調査して欲しいとの意見の頂き、機会があれば続けて検討していきたいと思ひます。